



仮説 2

持ち去られている？

下関市では、「下関市廃棄物の減量及び適正処理等に関する条例」において、「ごみステーションからごみの持ち去りを禁止していません。しかし、「新聞紙や缶などのごみを持ち去られているのではないかと」という情報が寄せられることがあります。

緑色の下関市所有の収集車の他、市から委託を受けた収集車両には「下関市委託車両・家庭ごみ収集運搬」と書かれたステッカーが貼ってありますので、収集日にこれら以外の車両がごみステーションからごみを持ち去っていたら、クリーン推進課へ情報の提供をお願いします。

ところで、収集日ではない土曜日・日曜日に、ごみステーションに新聞紙や缶などが出されていることがあります。これは、近くの団体が集団回収を行っていることが考えられます。

古紙は、ごみステーションで行政回収される他、自治会や子ども会、スポーツ少年団などが行う集団回収に協力することでも、資源とすることができまます。「紙は資源」。取り組みやすい方法で、紙の再資源化に協力をお願いします。

市では、集団回収を行った団体に、1^キ当たり5円の奨励金を交付しています。事前に団体登録が必要です。集団回収を始めたい団体は、クリーン推進課にお問い合わせください。

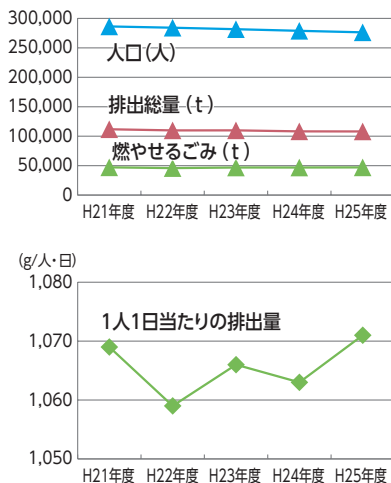


仮説 3

分別されなくなっている？

下関市のごみの現状を見ると、人口の減少に応じて、総排出量も減少しています。燃やせるごみの排出量に大きな変化はありません。しかし、古紙の排出量だけが大きく減っているというところは、これまで古紙類として出されていたものが、燃やせるごみに混ざって出されるようになったのでしょうか？ つまり、分別が進まなくなっている？

ごみの総排出量の減少量は、人口の減少ほどではないので、1人1日当たりのごみの排出量は逆に増加傾向にあります。



これは、大きな問題です。下関市では、平成29年度までに1人1日当たりのごみの排出量を980^gに、再生利用率を29%まで上昇させる計画を立てて減量を進めています。これは、市民の皆さん

皆さんもできることから、ごみ減量を



(大谷峯子さん 大谷武雄さん)

6月に生ごみ堆肥化容器を購入し、補助金を申請した大谷夫妻。きっかけは豊浦町に引っ越してきた際に、ガーデニングや家庭菜園が趣味の奥様が、土壌改良材として牛乳パックにボカシ菌を入れて堆肥化したこと。「処理した生ごみは有機性に富んでいるので、家庭菜園の肥料としておいしい作物を育てています」と笑顔で語ってくれました。

ごみを減らすには、市民一人ひとりの少しの心掛けだと思います。取り組んでみませんか。

の協力なくしては、達成できません。紙のリサイクルをはじめ、今一度、ごみの分別と減量について、考えてみる必要があります。

●生ごみ堆肥化容器補助金

燃やせるごみの多くは、生ごみです。下関市では、ごみ減量に有効な、生ごみ堆肥化容器を購入された方に補助金を交付しています。

(☎252-7165)

●収集車に広告を掲出しませんか。

市では、自主財源の確保を目的に、収集車に掲出する広告主を募集しています。収集車は1日に100^キ以上も市内を走る、魅力的な広告媒体です。

掲出料 月額5140円、1万5420円

園クリーン推進課

(☎252-7165)



▲掲出は側面・後方面です

謎は、深まるばかりであるが、皆さんには引き続き、ごみの分別・減量にご協力いただきたい。

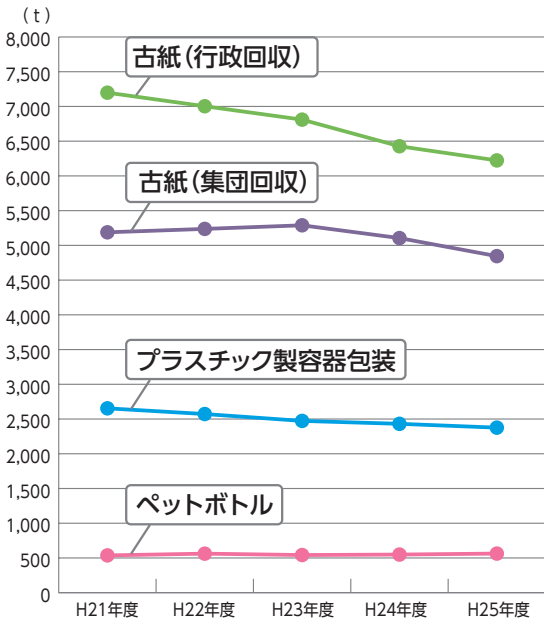




紙

は、どこに消えた？

下関市の資源ごみ収集量の推移



左上のグラフを見ていただきたい。最近5年間の資源ごみの収集量の推移である。特に平成25年度は、古紙類が減っている。ごみが減るのは喜ばしいが、資源ごみは、売却され貴重な財源にもなっている。紙は、どこへ消えたのか？



仮説 1

使用量が減っている？

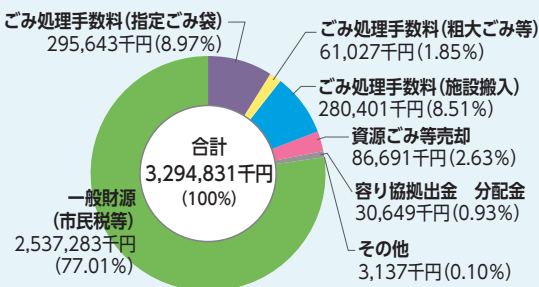
電子化や通信機器の発達により、紙の使用量自体が減っているのでしょうか？

日本製紙連合会の統計によると、ここ数年の国内の紙・板紙の需要は約270〜280万トで、大きな変動がありません。ということは、下関市だけで紙の使用量が減っていることは考えにくく、古紙の排出量が大きく減っている原因とは言えそうにありません。

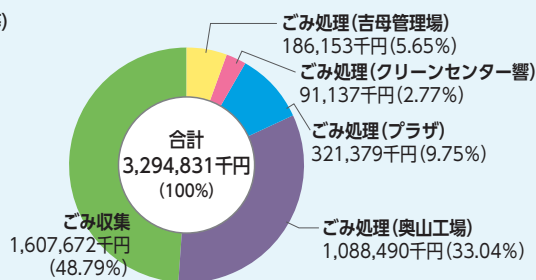
資源ごみを有効に再資源化するためには、正しい分別が重要です。特に分別間違いが多いのが、プラスチック製容器包装です。「プラスチック」と名前がありますが、青色の指定ごみ袋に入れられるのは、プラマーク(左下)が付いているか、表示による指示がある物だけです。ごみ百科で、正しい分別の確認をお願いします。



【平成24年度ごみ処理経費財源内訳】



【平成24年度ごみ処理経費】



データファイル data file

平成24年度、ごみ処理に掛かった経費は約33億円。約1億2,000万円は資源ごみの売却益が充てられています。